

「在宅酸素療法：HOT」について

いまい医院 白山1丁目17 25

今井 慎

あまり聞き慣れない言葉かもしれませんが近年、医療機器の進歩、在宅支援等の医療体制の充実により増えてきているものであります。空気中には約21%の酸素があり、肺はその酸素を体内に取り込み、体内に貯った炭酸ガスを排出するという重要な役割があります。肺の病気、即ち呼吸器疾患では、疾患の慢性経過中に病態が進行し、低酸素血症を呈するような状態になる場合があります。慢性的な低酸素血症を有する患者は、一般的に心臓に負担をかけ、生命予後の低下を招きます。このような人に酸素を投与することで、心臓への負担を軽減し、組織への酸素供給の改善が期待できます。そのことが、生命の維持、さらには運動能力、日常生活、活動性を向上させます。即ち、この低酸素血症を是正し、患者の予後を改善することを目的として、長期にわたり酸素吸入を行なうこと、特に家庭で行なうことを「在宅酸素療法：HOT」と呼んでおり、海外の研究では、これにより、生存期間の延長を認めております。このように低酸素血症を呈する人には、とても有益なものでありますが、当然のように、病院外で安定して酸素を供給する装置がないと不可能でありました。約20年前より日本では、酸素ポンペを中心に始まりましたが、設置、管理が大変で費用もかかり、一般的に普及するレベルではありませんでした。しかし、医療機器の進歩により、現在、日本で主流となっているものは、家庭電源があれば、どこでも安定して酸素を供給できる機器となり、外出時においても軽量ポンペで負担も少なく、旅行も可能であります。HOT本来の目的は、単に自宅で酸素吸入するというだけではなく、今まで制限されていた行動が大きく広がり、生き甲斐をもって充実した日々を送ってもらうことを目的としています。医療機器のめざましい進歩、在宅支援等の医療体制の充実により、今まで一般的ではないと思われていた事が可能になる。HOTに限らず、こういった在宅医療がもっと進歩すればなぁと思います。医師、医療スタッフも、人々の笑顔がみたくて、少しでも力になればと日々、頑張っております。